

(トップページ: <http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(GDP (IMF WEO) : <http://mylibrary.maeda1.jp/GDP.html> )

(MENA・イスラム圏: <http://mylibrary.maeda1.jp/MenaOicCountries.html> )

マイライブラリー:0546

(注)本稿は 2021 年 10 月 20 日から 27 日まで 5 回に分けて「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2021.10.30

前田 高行

## 長びくコロナ禍で今年の成長率は下方修正:IMF 世界経済見通し 2021 年 10 月版

IMF(国際通貨基金)では毎年 4 月および 10 月に世界各国の経済見通し「World Economic Outlook(WEO) Database」を公表しており、今年 10 月版(以下 WEO2021Oct)がインターネット上に公開された。

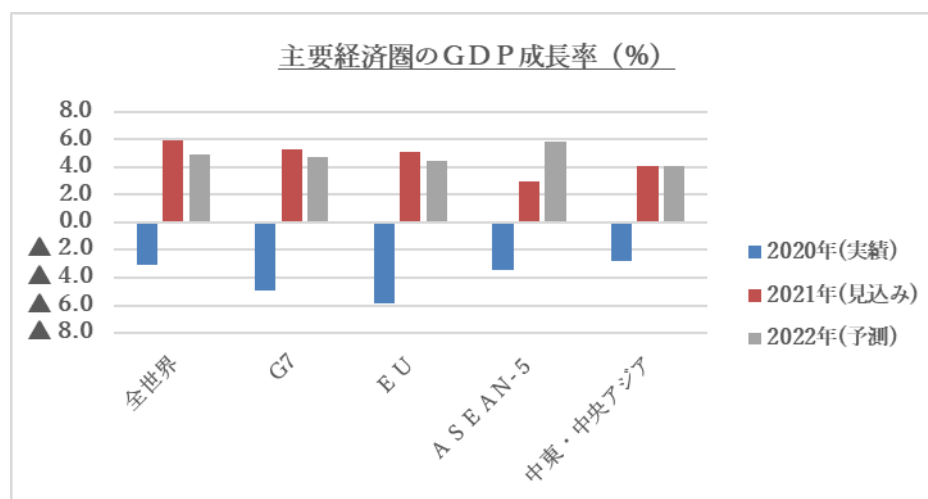
\* URL: <https://www.imf.org/en/Publications/WEO/weo-database/2021/October>

ここでは 2018 年から 2022 年までの GDP(current price, ドル建て)を取り上げ、成長率については前回 2021 年 4 月版(以下 WEO2021April)<sup>1</sup>と比較して世界と MENA 主要国の経済状況の変化を検証する。

(昨年の反動で軒並み高い成長率、来年は通常の成長ペースに！)

### 1. 2021/22 年の GDP 成長率(末尾表 1-B-2-08 参照)

#### (1)全世界及び主要経済圏の GDP 成長率



IMF は今年(2021 年)の世界の GDP 成長率を 5.9%と見込んでいる。次項に述べる通り 4 月版では 6.0%と予測していた。昨年は新型コロナウイルスにより世界経済がマヒ状態に陥り、成長率は▲3.1%であったが、今年は昨年のマイナス成長を克服して回復軌道に入っている。但しコロナ禍の影響が長引いており今年の成長率は WEO2021Apr の 6.0%からわずかながら下方修正している。来年(2022 年)の成長率は 4.9%と予測しており、世界経済は本来の成長ペースに戻ると見られ

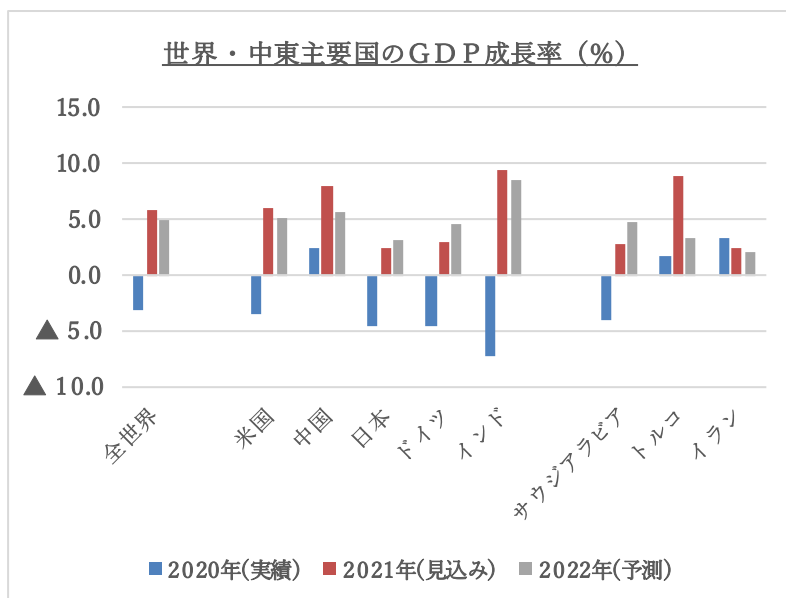
る。

今年の成長率について経済圏毎に見ると主要先進7カ国(G7)が5.3%、EUは5.1%とされ、開発途上国のASEAN5カ国は2.9%、中東・中央アジアは4.1%とされている。これらの経済圏はいずれも世界平均の5.9%を下回っている。特にこれまで世界経済成長のエンジンとされてきたASEANの成長率が低いのが特徴である。これは世界経済全体の回復の遅れに加え、ASEAN諸国でコロナ禍が長引いているためである。しかし来年のASEANの予測成長率は5.8%であり、他の地域のいずれよりも高い。IMFではASEANが来年には経済成長を取り戻すと見ている。

G7及びEUの成長率は今年の5.3%及び5.1%から来年はそれぞれ4.7%及び4.4%になる。昨年の反動で今年の成長率は例年より高目であり、来年は本来の安定した成長になると見られる。中東・中央アジアは今年来年とも4.1%の成長率になる見込みである。

(今年、来年と高度成長が見込まれるインド！)

## (2)主要国のGDP成長率



世界及び中東主要国の昨年从去年まで3年間の成長率を見ると、まず目につくのはほとんどの国はこの3年間の成長率に著しい変動が見られることである。即ち、昨年のマイナス成長の反動で今年は高い成長率が見込まれ、来年はそれが通常のペースに戻ると予測している。

日本は昨年の▲4.6%のマイナス成長から今年はプラス2.4%に変わり、来年はさらに

プラス3.2%になるとIMFは予測している。後述する通り2018及び19年の日本の成長率は0.6%及び0.0%といずれも1%以下であり先進国の中でも最も低い伸びにとどまっている。今年は昨年の反動で成長率が高めになると見込んでいるが、新型コロナウイルスの影響による昨年のマイナス成長を跳ね返すことができるのか、さらに来年についても従来を大きく上回る3%台の成長が期待できるのかは予断を許さない。

米国の場合、昨年実績は▲3.4%であったが、今年は一気に6.0%の成長を達成し2年間で10%近い大きな変動が見込まれている。また来年も5.2%の成長が予測されている。米国はバイデン新政権が総額1.9兆ドルの巨額の景気刺激策を発動しており、IMFは景気がV字回復すると予測している。

一昨年まで高度成長を続けてきた中国は、コロナウィルス禍を早期に押さえ込み、昨年の成長率もGDP大国の中で唯一2.3%のプラス成長を達成している。そして今年及び来年の成長率はそれぞれ+8.0%、+5.6%と予測されている。従来の高度成長及び将来の潜在的な成長力を考慮すると、IMFが予測した成長率を達成することはさほど難しくなさそうである。なお中国当局の発表によれ

ば今年 1-3 月は昨年同期比+18.3%、4-6 月期は同+7.9%である。

インドはここで取り上げた国の中では 3 年間の経済成長率の振幅が最も激しく、昨年は▲7.3%のマイナス、今年は+9.5%、来年も+8.5%の成長が予測されており、昨年と今年のプラス・マイナスの差は 17%に達している。同国のコロナ禍は鎮静の兆しが見られず、今年から来年に向かいインド経済が順調に回復するかどうか、注視する必要があるとみられる。

MENA の主要国の 3 か年の成長率は、サウジアラビアが▲4.1%(昨年)→2.8%(今年)→4.8%(来年)であり、トルコは 1.8%(昨年)→9.0%→3.3%、イラン 3.4%(昨年)→2.5%→2.0%である。トルコ及びイランは共に 3 か年を通じてプラス成長が続くと予測されている。イランの場合、核交渉の再開が遅れており、米国の経済制裁解除の見通しが立っていないため、経済成長率の動向は極めて流動的である。サウジアラビアの経済成長率は原油価格と輸出量に左右されるであろう。トルコは中東の中で政治的発言力を増しているが、経済面では消費国 EU とエネルギー生産国ロシアに挟まれた地政学的な影響を受け、経済成長予測が難しいところである。

(今年 は 下方修正、来年 は 上方修正の米中日！)

## 2. 前回(2021 年 4 月)と今回(2021 年 10 月)の比較(末尾表 1-B-2-08 参照)

### (1) 世界および主要経済圏の比較

上述のとおり今回(WEO2021Oct)の全世界の成長率見通しは今年(2021 年)が 5.9%、来年(2022 年)は 4.9%である。これに対して前回(WEO2021April)の見通しでは両年の成長率はそれぞれ 6.0%、4.4%であり、本年は▲0.1%下方修正され、来年は 0.5%上方修正されている。今回、コロナ禍の影響が長引き本格的な景気回復が来年にずれ込むと予測したためである。

2021 年の見通しについて主要経済圏を前回と比較すると、G7 は前回の 5.4%から今回は 5.3%に下がっている。その他の経済圏についても EU(4.4%→5.1%)、ASEAN-5(4.9%→2.9%)は下方修正されている。一方、中東・中央アジア(3.7%→4.1%)は上方に修正されている。この地域は産油・ガス国が多く、エネルギー需要が一足早く回復したことを反映していると考えられる。

また来年(2022 年)の GDP 成長率の見通しについて前回と今回を比較すると、全世界の成長率は前回の 4.4%から 4.9%に上方修正されている。主要経済圏では G7(3.6%→4.7%)、EU(3.9%→4.4%)は成長率がアップしているが、ASEAN-5 は 6.1%→5.8%に減退している。ASEAN-5 は今年の成長率も 4 月見通しからダウンしており、コロナ禍に加え経済の回復の遅れが影響しているようである。

### (2) 主要国の比較

今年の成長率についてインドは 12.5%から 9.5%と大幅に下方修正されている。その他多くの国も日本(3.3%→2.4%)、ドイツ(3.6%→3.1%)、米国(6.4%→6.0%)、中国(8.4%→8.0%)などが下方修正されている。このような中で今年の成長率が 4 月見通しを上回ると予測されているのは、英国(5.3%→6.8%)、ロシア(3.8%→4.7%)、韓国(3.6%→4.3%)の各国である。

また中東の主要国の今年の成長率の見直しは以下のとおりであるが、上方修正と下方修正が混在している。

サウジアラビア(2.9%→2.8%)、トルコ(6.0%→9.0%)、UAE(3.1%→2.2%)、イラン(2.5%→2.5%)、イスラエル(5.0%→7.1%)、エジプト(2.5%→3.3%)、イラク(1.1%→3.6%)

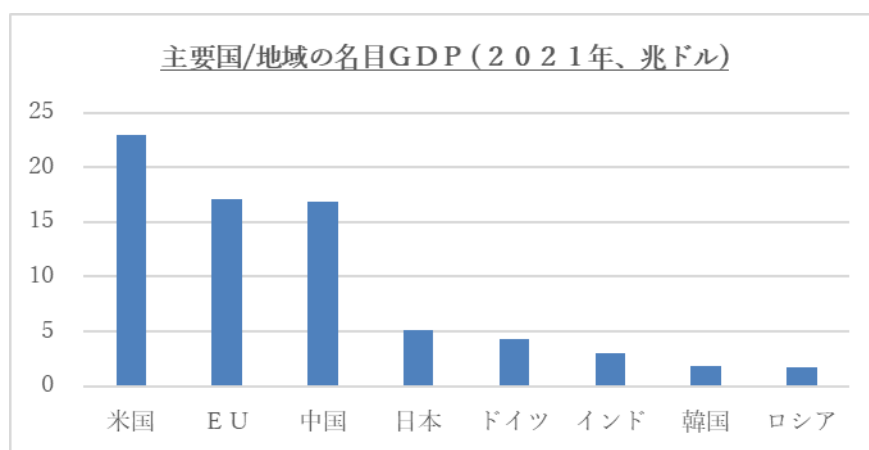
2022 年の成長率予測は強弱入り乱れており、上方修正されたのはインド(6.9%→8.5%)、ドイツ(3.4%→4.6%)、日本(2.5%→3.2%)などの各国である。一方下方修正されたのはロシア(3.8%→2.9%)である。

中東諸国は下記の通りイラクを除いて大きな変動はない。

サウジアラビア(4.0%→4.8%)、トルコ(3.5%→3.3%)、UAE(2.6%→3.0%)、イラン(2.1%→2.0%)、イスラエル(4.3%→4.1%)、エジプト(5.7%→5.2%)、イラク(4.4%→10.5%)

(米国と中国の二カ国で全世界の GDP の 42%！)

### 3. 2021年の世界及び主要国の GDP (Current Price)(末尾表 1-B-2-09 &12 参照)



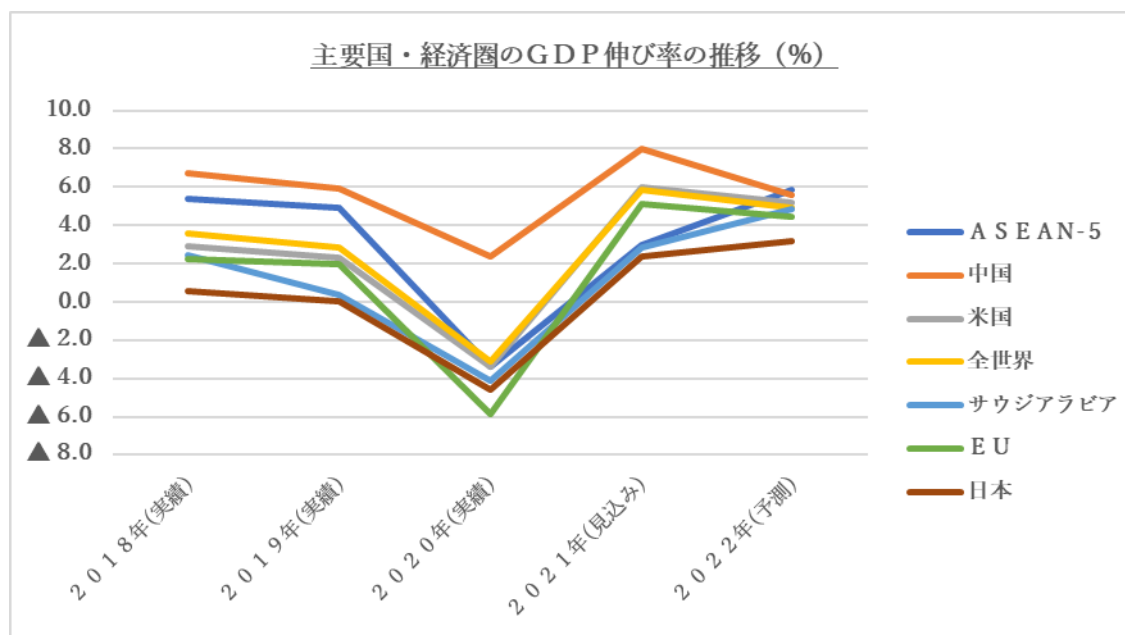
IMF によれば今年の世界の GDP(at Current Price)総額は95兆ドルの見込みである。このうち G7 は42兆ドルで全体の 45%を占め圧倒的な存在感を示している。EU の GDP 総額は17兆ドル(全世界の18%)、ASEAN5か国は3兆ドル(同3%)である。

国別では2021年の GDP の世界ベストテンは米国が世界トップ(23兆ドル)で全世界に占める割合は24%、同国一国だけで世界の GDP の4分の1を生み出している。米国に次ぐ GDP 大国は中国の17兆ドルであり世界全体の18%を占めている。この2か国が世界で突出している。因みに EU の GDP は中国とほぼ同じである。

第3位は日本(5.1兆ドル)でこれに次ぐ世界第4位はドイツ(4.2兆ドル)である。日本の GDP は米国の5分の1あるいは中国の3分の1にとどまっている。第5、6位は英国(3.1兆ドル)及びインド(2.9兆ドル)であり、7位から10位はフランス(2.9兆ドル)、イタリア(2.1兆ドル)、カナダ(2.0兆ドル)、韓国(1.8兆ドル)の各国である。

11位から20位まではロシア、ブラジル、オーストラリア、スペイン、メキシコ、インドネシア、イラン、オランダ、サウジアラビア及びスイスの各国である。中東諸国ではイラン、サウジアラビア及びトルコがそれぞれ世界17位、19位と21位にランク付けされているが、このほかの中東諸国で世界上位に入っているのはイスラエル(同30位)、UAE(同34位)、エジプト(同36位)の各国である。

#### 4. 世界および主要地域・国の GDP 成長率の推移(2018~2022年)(末尾表 1-B-2-11 参照)



(大きく落ち込んだ2020年！)

##### (1) 世界および主要経済圏

世界全体の成長率は2018年、2019年と3%前後で推移していたが、2020年は▲3.1%に急落した。今年は昨年の反動で5.9%の高い成長を達成する見込みであり、2022年の成長率は4.9%と予測されている。

経済圏別に見ると G7 の成長率は2019年まで2%前後の成長を続けたのち、昨年は世界平均を超える▲4.9%のマイナス成長となり、今年は5.3%に回復、来年も4.7%のプラス成長が予測されている。EU は2018年の成長率が2.3%であったが、2020年は新型コロナウイルスの影響で世界平均を大幅に下回る▲5.9%の大幅な落ち込みであった。今年及び来年は5.1%、4.4%のプラス成長になる見込みである。

ASEAN-5か国は他の経済圏に比べ高い成長率を達成している。同地域は2018年及び19年は世界平均を上回る5%前後の成長率を維持しており、2020年は他の地域と同様コロナウイルスの影響を免れないものの G7 あるいは EU の落ち込み幅より低い▲3.4%のマイナス成長であった。そして今年は2.9%、来年は5.8%のプラス成長が見込まれている。また中東・中央アジア地域の成長率は2018年 2.2%、2019年 1.5%の低い成長率にとどまっており、昨年の▲2.8%のマイナス成長を経て今年及び来年は続けて4.1%のプラス成長が予測されている。

(5年間を通じてプラス成長を達成する中国！)

##### (2) 世界と中東の主要国

日本の2018年、19年の成長率は0.6%及び0.0%の低い成長率にとどまった。2020年は世界平均を上回る▲4.6%の大幅なマイナス成長になり、2021年、22年には一転して2.4%及び3.2%の成長が予測されている。2022年の予測値は世界平均の4.9%あるいは G7 の4.7%に比べて低いが、過去の実績を勘案するとなおハードルは高そうである。

米国の経済は先進国の中では好調であり、2020年は▲3.4%に落ち込んでいるが、今年は6.

0%、来年は5.2%の成長が見込まれている。

中国は2018年以前から世界でも飛びぬけた高い成長を誇っており、ほぼすべての国がマイナス成長に陥った2020年も GDP 成長率はプラス2.3%であり、2018年以降連続してプラス成長を続ける数少ない国である。因みに同国の GDP 成長率は6.8%('18年)→6.0%('19年)→2.3%('20年)→8.0%('21年)→5.6%('22年)である。

近年中国と高度成長を競い合っているインドの2018年以降2022年までの GDP 成長率は、6.5%→4.0%→▲7.3%→9.5%→8.5%である。昨年(2020年)は世界平均を大幅に上回るマイナス成長であったが、今年、来年と中国を上回る成長が予測されている。

中東の主要国を見ると、GDPが世界19位、中東で最大のサウジアラビアは2018年には2.4%と世界平均を下回る成長率であった。その後2019年は0.3%に低下、さらに2020年には▲4.1%のマイナス成長に陥っている。今年はプラス2.8%に回復、来年も4.8%の成長が予測されているが、この5年間の成長率はいずれも世界平均を下回っている。

イラン、サウジアラビアに次ぐ中東の GDP 大国トルコはコロナ禍に見舞われほとんどの国がマイナス成長に陥った昨年もプラス成長(1.8%)を達成、中国とともに5年間を通じてプラス成長を維持している。イランの GDP 成長率は米国の経済制裁の影響を受け、18年▲6.0%、19年▲6.8%と大幅なマイナス成長であったが、昨年以降来年まではプラス成長である。エジプトの成長率の推移は5.3%(18年)→5.6%(19年)→3.6%(20年)→3.3%(21年)→5.2%(22年)であり安定したプラス成長が続くと見込まれている。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行      〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
E-mail; [maeda1@jcom.home.ne.jp](mailto:maeda1@jcom.home.ne.jp)

**MENAと世界主要国の GDP 実質成長率(2021-22年)**

国名	2021年10月見通し(今回)			2021年4月見通し(前回)		前回/今回比較	
	2021年 成長率 (%)	2022年 成長率 (%)	増減	2021年 成長率 (%)	2022年 成長率 (%)	2021年 成長率 (%)	2022年 成長率 (%)
全世界	5.9	4.9	▲ 1.0	6.0	4.4	▲ 0.1	0.5
G7	5.3	4.7	▲ 0.6	5.4	3.6	▲ 0.1	1.1
EU	5.1	4.4	▲ 0.7	4.4	3.9	0.7	0.5
ASEAN-5	2.9	5.8	2.9	4.9	6.1	▲ 2.0	▲ 0.2
中東・中央アジア	4.1	4.1	▲ 0.0	3.7	3.8	0.4	0.3
米国	6.0	5.2	▲ 0.8	6.4	3.5	▲ 0.4	1.7
中国	8.0	5.6	▲ 2.4	8.4	5.6	▲ 0.4	0.0
日本	2.4	3.2	0.8	3.3	2.5	▲ 0.9	0.7
ドイツ	3.1	4.6	1.5	3.6	3.4	▲ 0.6	1.1
英国	6.8	5.0	▲ 1.8	5.3	5.1	1.4	▲ 0.1
インド	9.5	8.5	▲ 1.0	12.5	6.9	▲ 3.0	1.6
韓国	4.3	3.3	▲ 1.0	3.6	2.8	0.7	0.5
ロシア	4.7	2.9	▲ 1.7	3.8	3.8	0.9	▲ 0.8
サウジアラビア	2.8	4.8	2.0	2.9	4.0	▲ 0.1	0.8
トルコ	9.0	3.3	▲ 5.7	6.0	3.5	2.9	▲ 0.2
UAE	2.2	3.0	0.8	3.1	2.6	▲ 0.9	0.5
イラン	2.5	2.0	▲ 0.5	2.5	2.1	▲ 0.1	▲ 0.1
イスラエル	7.1	4.1	▲ 3.0	5.0	4.3	2.1	▲ 0.2
エジプト	3.3	5.2	1.9	2.5	5.7	0.9	▲ 0.4
イラク	3.6	10.5	6.9	1.1	4.4	2.5	6.1

**GDP at Current Price(2021年10月値)**

(単位:10億ドル)

国名	2020年	2021年	%	増減	増減率(%)
全世界	84,972	94,935	100.0%	9,963	11.7%
G7	38,645	42,458	44.7%	3,813	9.9%
EU	15,264	17,078	18.0%	1,815	11.9%
ASEAN-5	2,603	2,821	3.0%	218	8.4%
中東・中央アジア	3,891	4,598	4.8%	707	18.2%
米国	20,894	22,940	24.2%	2,046	9.8%
中国	14,867	16,863	17.8%	1,996	13.4%
日本	5,045	5,103	5.4%	58	0.4%
ドイツ	3,843	4,230	4.5%	387	7.7%
英国	2,710	3,108	3.3%	399	10.4%
インド	2,660	2,946	3.1%	286	10.5%
韓国	1,638	1,824	1.9%	186	7.0%
ロシア	1,479	1,648	1.7%	169	10.3%
サウジアラビア	700	843	0.9%	142	9.6%
トルコ	720	796	0.8%	76	10.9%
UAE	359	410	0.4%	51	7.1%
イラン	835	1,081	1.1%	246	68.6%
イスラエル	407	468	0.5%	60	7.2%
エジプト	363	396	0.4%	33	8.1%
イラク	169	201	0.2%	32	8.8%



世界上位 20 カ国と中東主要国の GDP (2021 年、at current price)

G7	G20	順位	国名	10 億ドル	%
*	*	1	米国	22,940	24.2%
	*	2	中国	16,863	17.8%
*	*	3	日本	5,103	5.4%
*	*	4	ドイツ	4,230	4.5%
*	*	5	英国	3,108	3.3%
	*	6	インド	2,946	3.1%
*	*	7	フランス	2,940	3.1%
*	*	8	イタリア	2,120	2.2%
*	*	9	カナダ	2,016	2.1%
	*	10	韓国	1,824	1.9%
	*	11	ロシア	1,648	1.7%
	*	12	ブラジル	1,646	1.7%
	*	13	オーストラリア	1,611	1.7%
		14	スペイン	1,440	1.5%
	*	15	メキシコ	1,286	1.4%
	*	16	インドネシア	1,150	1.2%
		17	イラン	1,081	1.1%
		18	オランダ	1,008	1.1%
	*	19	サウジアラビア	843	0.9%
		20	スイス	811	0.9%
	*	21	トルコ	796	0.8%
		22	台湾	786	0.8%
		30	イスラエル	468	0.5%
	*	31	アルゼンチン	455	0.5%
	*	33	南アフリカ	415	0.4%
		34	UAE	410	0.4%
		36	エジプト	396	0.4%
		52	イラク	201	0.2%
		55	カタール	169	0.2%
		58	クウェイト	132	0.1%
		69	オマーン	81	0.1%
			全世界	94,935	100.0%
			(G7)	42,458	44.7%
			(EU)	17,078	18.0%

**GDP 対前年伸び率(%、2021年10月値)**

国名	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
全世界	3.6	2.8	▲ 3.1	5.9	4.9
G7	2.1	1.6	▲ 4.9	5.3	4.7
E U	2.3	1.9	▲ 5.9	5.1	4.4
A S E A N - 5	5.4	4.9	▲ 3.4	2.9	5.8
中東・中央アジア	2.2	1.5	▲ 2.8	4.1	4.1
米国	2.9	2.3	▲ 3.4	6.0	5.2
中国	6.8	6.0	2.3	8.0	5.6
日本	0.6	0.0	▲ 4.6	2.4	3.2
ドイツ	1.1	1.1	▲ 4.6	3.1	4.6
英国	1.3	1.4	▲ 9.8	6.8	5.0
インド	6.5	4.0	▲ 7.3	9.5	8.5
韓国	2.9	2.2	▲ 0.9	4.3	3.3
ロシア	2.8	2.0	▲ 3.0	4.7	2.9
サウジアラビア	2.4	0.3	▲ 4.1	2.8	4.8
トルコ	3.0	0.9	1.8	9.0	3.3
UAE	1.2	3.4	▲ 6.1	2.2	3.0
イラン	▲ 6.0	▲ 6.8	3.4	2.5	2.0
イスラエル	4.0	3.8	▲ 2.2	7.1	4.1
エジプト	5.3	5.6	3.6	3.3	5.2
イラク	4.7	5.8	▲ 15.7	3.6	10.5

<sup>1</sup> 2021年4月版については下記参照。

<http://mylibrary.maeda1.jp/0531ImfWeoApr2021.pdf>